

～ 会派の活動を報告します ～

真政会

真政会は、11月7・8日に鹿児島県霧島市で「防災とコミュニティ」をテーマに開催された第81回全国都市問題会議に参加した。基調講演は志學館大学原口泉教授の「鹿児島島の歴史から学ぶ防災の知恵」、中重真一霧島市長の「霧島の防災の取り組み・火山防災」、尚綱学院大学田中重好教授の「災害とコミュニティ・地域から地域防災力強化への答えを出すために」、松井一寛広島市長より「平成30年7月豪雨災害における広島市の対応と取り組みについて」の報告があった。

世界的にみて日本は災害が多

い国であることは国民が認識している。ここ数年日本各地で大規模な自然災害が発生しており、南海トラフ巨大地震や地球温暖化による気候変動が大きな影響を与える気象災害など、今後も大きな自然災害の発生が懸念されている。そうした中で、人々の災害、防災への関心は非常に高まっている。特に東日本大震災のような大規模災害や近年の幾多の気象災害の経験を通じ、「公助」の限界が認識される一方、防災の原点として住民一人一人による「自助」、地域コミュニティによる「共助」が再評価されている。折しも10月12・13日に当地を襲った台風19号で警戒レベル4避難指示を経験したば

かりであり、その際問題となった市民への伝達方法、避難場所、避難経路等は今後対応すべき大きな課題となった。

今回の台風による教訓や関東・東北豪雨で経験した雨水対策等は、いつ起こるか分からない自然災害に備えて対処しなければならない喫緊の課題である。真政会は市民の安心安全確保のために防災意識の高揚と諸問題解決のために全力で取り組む。



市民ベースの会

当会派では、市民の皆さんと協働を基本に活動しています。

◆先進地視察

7月12日に県内2例目として開所した東海村病児病後児保育施設「るぴなす」（村立東海村病院敷地内併設）を視察しました。古河市子育て支援拠点整備の一つに病児・病後児保育機能があります。0～12歳児の共働き家庭への支援として保護者のニーズを形にした病児・病後児対応型、体調不良児対応型の本施設を視察し、多様化する子育て支援の中で古河市における課題抽出ができました。古河市では公

営することによる事業の安定確保を底辺におき「古河市子育て拠点施設西側における施設導入基本計画」を進めていただきたい旨の提言をいたしました。

◆議会活動

当会派は特定党派ではなく、多様な考え方を持つ議員で構成されており、日々「市民の皆さんにとって何が本当に大切なことか、次世代へつなぐ夢がもてる古河市のあるべき姿をつくり上げること」を根底に、一つ一つの議案、請願、陳情の採択と一般質問を行っています。

◆議員個々の活動

地域のつながりを強固にし、災害時にも対応できるよう、各地区コミュニティへの積極的な

参加、ボランティアサークル活動や地域の防犯活動等でそれぞれの議員が活躍しています。

これからも「市民の皆さんがベース（基本）」「市民の皆さんのニーズを形にする」「市民の皆さんと共に協働する」「産官学民連携も取り入れ、古河市を取り巻く社会情勢に立ち向かう」を基本に、行政だけでは実現が難しい事業の企画提案を実施し、市民協働を実践してまいります。

